

第4章

緑化重点地区



令和4年度 公益財団法人須賀川牡丹園保勝会主催 第21回牡丹絵画展
須賀川市観光物産振興協会会長賞 須賀川市立第三小学校1年 田村 寧心さん

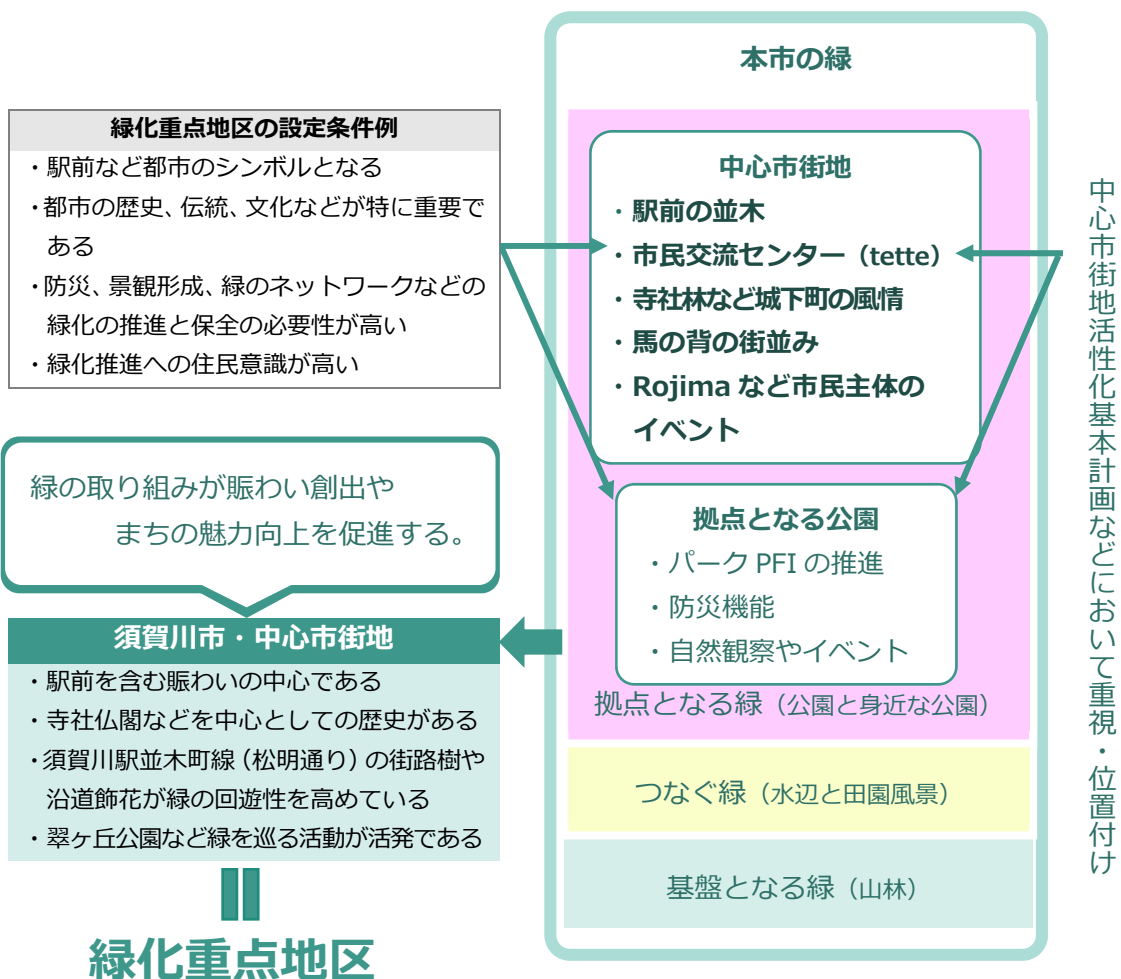
4-1 緑化重点地区の位置づけ

この計画では「光る緑の須賀川」の実現に向け、本市全域で緑の取り組みを進めるうえで、3つの緑の種別に応じた基本方針と基本施策を設定しています。

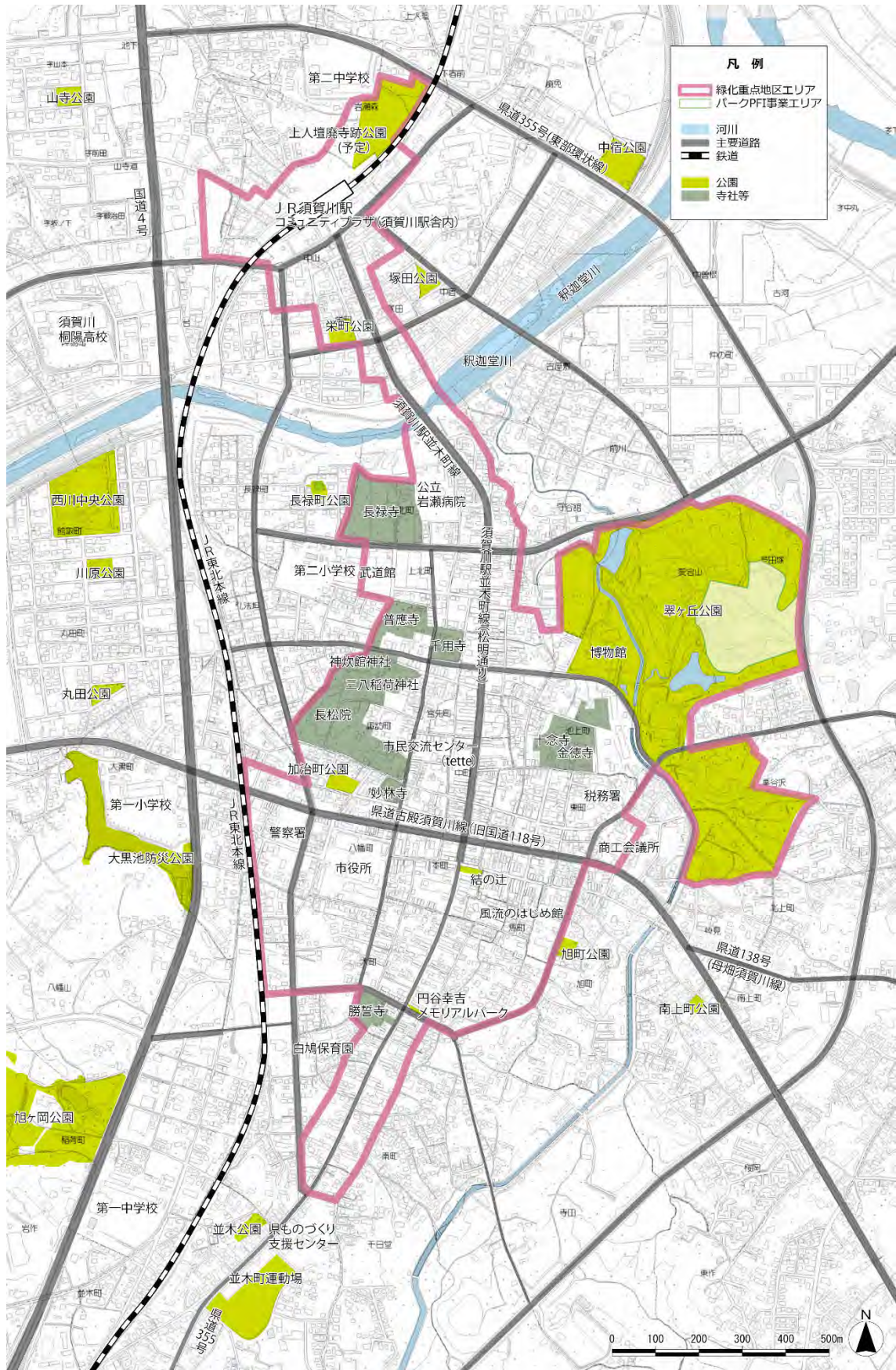
このうち、本市全体の緑の魅力向上に大きく影響する取り組みを行う地区を、複数の基本施策・取組方針を組み合わせ、重点的に推進する緑化重点地区に位置付けます。

4-2 緑化重点地区のエリア

緑化重点地区の設定に当たっては、シンボル性・必要性・住民による緑の活動の現状や、中心市街地における賑わい創出の拠点としての翠ヶ丘公園の活用、また、現在整備を進めている駅西地区との関係性を踏まえ、対象エリアを設定しました。



緑化重点地区



4-3 取り組みの方向性

(1) 緑のテーマの実現に向けて

緑のテーマである「わたしたちが育てる 光る緑の須賀川」の実現に向け、地域の歴史・文化に根差した緑や市のシンボルとなる区域の緑の適切な維持管理が必要です。

また、公民連携の取り組みにより、緑が持つ機能、役割が発揮され、利活用が望まれることから、前計画の緑化重点地区のテーマ「うるおいと風格ただよう緑豊かな中心市街地の形成」の考えを基に、緑化重点地区の現況と課題を整理し、取組方針を定めました。

(2) 緑化重点地区の現況と課題

現 況	課 題
<ul style="list-style-type: none"> 重点地区の約 1/4 を翠ヶ丘公園が占め、市民による主体的な利活用が進められている。 一部の公園や緑地において、市民団体による維持管理活動や環境調査が行われている。 公園や緑地の緑について、適切な維持管理や保全が求められている。 	<p>市民と行政の協働による 緑の維持・保全・活用</p>
<ul style="list-style-type: none"> 駅前から街路樹としてハナミズキが植栽され、中心市街地では、市民によるプランターを利用した、緑の演出が行われている。 ポケットパークなど、緑の演出が可能な公共空間が確保されている。 	<p>市の顔としての 中心市街地における うるおいとなる緑の形成</p>
<ul style="list-style-type: none"> 古くは須賀川城の城下町、奥州街道の宿場町として栄えた場所であり、寺社林の豊かな緑が残っている。 「風流のはじめ館」が整備され、風情ある景観が形成されている。 水辺に恵まれ、下の川の河岸は桜並木となっている。 	<p>歴史的・文化的資源を生かした 緑の保全と活用</p>

(3) 課題に対する取組方針

1 地域住民・事業者・行政の協働による緑化推進体制づくり

課題 | 市民と行政の協働による緑の維持・保全・活用

- ・住民主体の緑化や緑に関わる活動促進のため、社会実験の推進、情報共有等、更なる協働推進体制の構築を図ります。
- ・翠ヶ丘公園内の他のエリアや、他の公園でのパークPFI事業を検討し、市民との協働による維持管理・活用を積極的に推進します。

事業

●パークPFI事業

●ストック（公園施設）再編事業



翠ヶ丘公園 パークPFI事業による飲食施設

まちなかにありながら広大で緑あふれる公園として多くの方に親しまれている翠ヶ丘公園。福島県内初のパークPFI事業により、更なる公園の魅力を引き出すことが期待されます。緑や木々に囲まれた中で、幅広い年代の方が利用しやすく、また遊びに行きたいと思える公園として、まちなかとの回遊性が生まれ、中心市街地の賑わい創出に繋がります。

今後、翠ヶ丘公園の他のエリアや、山寺池公園、旭ヶ岡公園等でパークPFI事業を検討していきます。



コラム 14 様々な社会実験

翠ヶ丘公園のパークPFI事業化に先駆けて、新たな公園利用のニーズを把握するため、社会実験の一環として、日本大学工学部建築学科住環境計画研究室が、「ブックガーデン」と称し、青空図書館活動を行いました。自然の風を感じて読書を楽しむ空間は公園での新たな楽しみ方を提供しました。



翠ヶ丘公園 ブックガーデン

2 うるおいのある中心市街地の形成

課題 | 市の顔としての中心市街地におけるうるおいとなる緑の形成

- ・緑を配置する際は、線ではなく、面（緑のネットワーク、緑の回廊）として計画的に配置し、緑の質の維持、向上を図ります。
- ・須賀川駅並木町線の沿道樹木の良好な保全に努め、まちなかにおける憩い・うるおいのある空間形成を図ります。
- ・地域住民や事業者と連携し、効果的な飾花を推進し、住民や観光客が再び足を運びたくなるような、緑豊かで魅力的なまちなか形成を推進します。
- ・パークPFI事業を進めている翠ヶ丘公園と、中心市街地の一体的な利用により、更なる回遊性の向上を目指します。
- ・駐車場や空き地スペースの適正な管理や緑化など、景観に配慮した土地利用を促進します。

事業

- 須賀川駅西地区都市再生整備事業
- 須賀川駅並木町線（南町工区）整備事業



須賀川駅西広場イメージ

須賀川駅は、本市の玄関口であり、お客様をお出迎え、お見送りする本市の「顔」とも言える重要な交通の結節点です。

須賀川駅の隣接地には国指定史跡上人壇廃寺跡もあり、駅前から市中心部へつながる県道は住民との協働により沿道緑化を進めています。駅周辺を整備することで、駅を起点に賑わいや回遊性のある、緑豊かなまちづくりを進めます。



コラム 15 身近な公園の利用

「駅前有志の会」は、駅西地区の整備をきっかけに地域活性化を目的として発足しました。会では身近にある緑豊かな街区公園の利用促進と、駅の忘れ物で捨てられる運命の傘をアート作品によみがえらせようと、3R（リユース・リデュース・リサイクル）を意識したイベントを開催しました。



街区公園を活用したイベント（栄町公園）

3 風格ただよう中心市街地の形成

課題 | 歴史的・文化的資源を生かした緑の保全と活用

- ・本市の城下町としての歴史を感じさせる寺社林を中心とする歴史的な緑について、地域住民と協力し、保全に努めます。
- ・南部地区は、風流のはじめ館を中心に歴史を感じさせる地区として、地域住民と連携し、豊かな景観の形成を目指し緑の配置を進めます。
- ・下の川の桜について、地域住民や関係団体と連携し、長寿命化などの維持管理に努めます。
- ・上人壇廃寺跡は、駅から望むことのできる遺跡であり、史跡の本質的価値を生かした歴史学習の場や、公園として憩いや安らぎを得られる活動の場として整備します。

事業 ● 上人壇廃寺跡の公園化



風流のはじめ館脇の金木犀

歴史・文化の薫り高い地区の地域交流拠点として整備された風流のはじめ館や等躬の庭では、四季折々の美しさを見せてくれる植栽が施され、まちの「庭」として市内外の皆様に憩いと癒しの場を提供しています。風流のはじめ館の整備に当たり、市民に愛されていた敷地内の金木犀を保存しました。金木犀の存在により、過去と現在が織りなす風流さを訪れる方に感じさせてくれます。



コラム 16 風流・歴史・文化

本市は松尾芭蕉が「おくのほそ道」の旅で七泊八日滞在し、地元の文化人と交流を深めたゆかりの地です。現在、風流のはじめ館は、相楽家宅跡にあります。そして、当時からある金木犀も、令和の現在において、人々の心に癒しを与え、過去への思いを馳せるきっかけとなる存在です。館内では芭蕉ゆかりの掛け軸や資料などが展示されているほか、句会や茶会が催されています。

近年、和傘アート、Rojima の開催場所として、公共空間のオープン化に取り組んでいます。今後も中心市街地の活性化と合わせて文化、歴史、そして緑の共生を図り、魅力的なまちをつくっていきます。



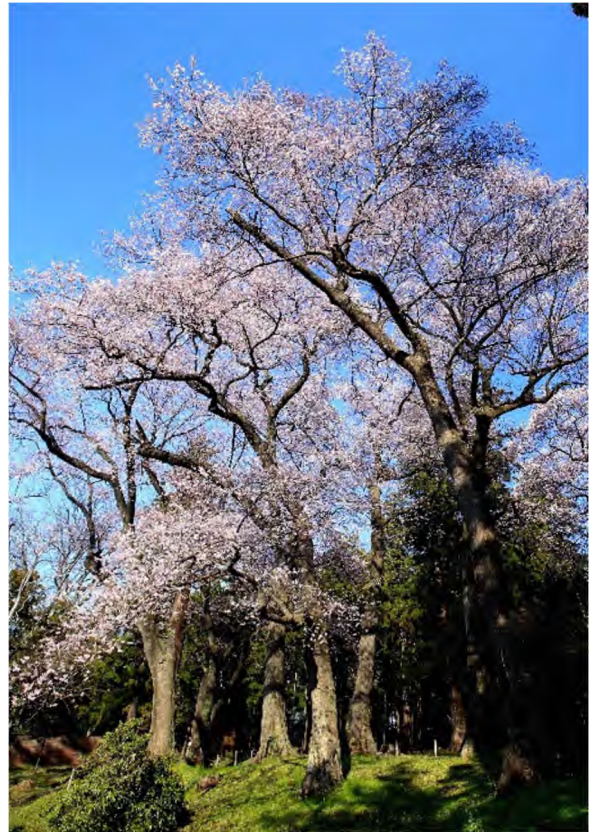
等躬の庭の和傘アート

須賀川の光る緑①

お諏訪の杜エドヒガン

神炊館神社の境内に群生するエドヒガン桜。樹齢は300年を超える巨木群です。市街地に固有種が現存する全国でも珍しい観覧スポットとして、多くの市民に長年愛されています。

この野生種であるエドヒガンの種子は、ソメイヨシノを育成するための台木用として大変貴重なものです。ソメイヨシノ等の栽培種の育成に活用された数万本の苗木は、国内はもとより世界に輸出されていることから、この神炊館神社のエドヒガンは、世界に植生されている桜の母親と言えます。



須賀川の光る緑②

下の川（須賀川）の桜



翠ヶ丘公園内を流れる下の川（須賀川）の兩岸1kmには、約180本の桜並木が続きます。

老齡化や環境の変化により、樹勢の低下や倒木が懸念され、樹勢回復の取り組みが必要です。

古木であるこの桜を、後世に伝えていくため、「どう残すか」「どのように保護していくか」みんなで考えていきましょう。